

IV-19

築川ダム建設に伴う生活環境整備のための住民意識について

岩手大学工学部 正員 安藤 昭
 岩手大学工学部 正員 赤谷 隆一
 岩手大学大学院 学生員 大泉 剛
 岩手大学工学部 学生員 ○今野 直剛

1. はじめに

一般的に山間部の生活環境整備は都市部と比べて立ち遅れている。岩手県が平成18年の完成を目指して盛岡市東部丘陵に建設を進めている築川ダムの周辺地域も例外ではない。

本研究は、築川ダム建設に伴う生活環境整備のための課題を明らかにすることを目的としている。

2. 調査の概要

対象地域は盛岡市の旧築川村内で、ダム建設に伴って生活環境が大きく変化するダムサイト下流の川目、上流の築川、水没移転により人口が半減する根田茂、それに隣接する砂子沢の4地区を選定した（図-1）。

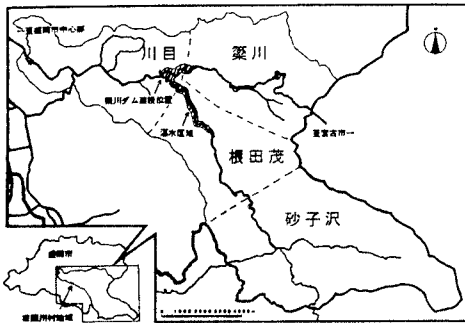


図-1 調査対象地域

調査はアンケート方式で、成人を対象として平成7年1月に訪問留置法により実施し、有効回答295票を回収した（回収率56%）。

調査の内容は生活環境に対する評価、定住意識、地域振興に関するもの、地域社会の性格分析の4つから構成されている。

生活環境については居住環境の総合評価を安全性、衛生性、快適性、個性の要因から評価し、生活環境の総合評価はそれに利便性を加えた5つの要因で評価してもらった。各要因は5から9の項目（計30項目）によって評価し、すべて「不満-満足」の5段階で行なった。

階で行なった。

定住意識については、将来にわたって定住の意志があるかどうかをたずねた。

地域振興については、具体的な施設名を挙げ管理運営に参加したいものを選んでもらった。

地域社会の性格分析については、地域社会を「地域共同体」、「伝統型アノミー」、「個我」、「コミュニティ」の4つに分け、それぞれの特徴を表した質問文より、自分の意見に近いものを選んでもらった。

ここでは生活環境評価、定住意識、及び地域社会の性格分析の結果について考察する。

3. 結果および考察

(1) 全員についての生活環境の5段階評価による結果と、それぞれの総合評価を外的基準とした場合の数量化理論Ⅱ類による解析結果を合わせて図-2に示す。生活環境、居住環境を外的基準にとった場合は比較的低い相関比をとったものの、個性、快適性、衛生性、安全性、利便性を外的基準にとった場合は0.63から0.70と高い値を得た。

居住環境に比べて生活環境は不満側の評価が多く、利便性が不満側に偏っていることが大きく影響しているためであると思われる。

次に各要因別に見ると、安全性については山崩れに対する不満の割合がやや高く、影響も大きい。これは山間部のため平地部が少なく、斜面のすぐ近くに家を建てざるを得ない事情が反映されているものと思われる。

衛生性については、下水の処理、ゴミ処理について不満が多く影響も大きい。現状は主としてゴミは各家庭ごとに焼却、下水については自然濾過が行なわれている。築川ダムは水道用水の供給も行うという観点からも、下水処理及びゴミ処理については早期の対策が必要である。

快適性は、良好な自然環境に恵まれていることが高い満足度の理由と思われる。特に自然の豊かさについては満足度が高く、重み度も大きくなっており

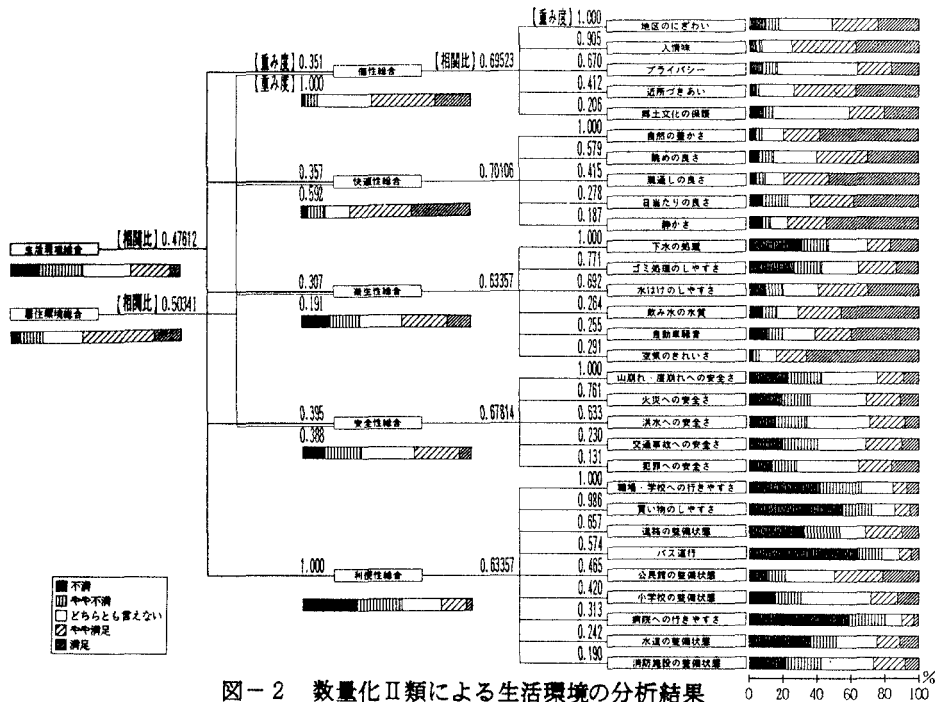


図-2 数量化Ⅱ類による生活環境の分析結果

高い快適性を維持するためにはダム建設に際しての自然への配慮が必要である。

個性は、快適性に次いで満足度が高くなった。これは人情味、近所付き合いなど地域住民に対する評価の高さが影響していることがわかる。

利便性については全体的に厳しい評価となったが特に職場・学校の行きやすさ、買物のしやすさは不満度も高く、影響も大きいという結果となった。不満度が高い項目は移動に関係するものであり、公共交通機関への不満が表れたものと思われる。

(2) 定住意識については、地域別に見ると築川、根田茂は「移りたい」が多く、特に根田茂は25%が移転希望であり、ダムにより世帯数が半分になることへの不安の表れではないかと思われる(図-3)。

また世代別に見ると、若年層で移転希望が高くな

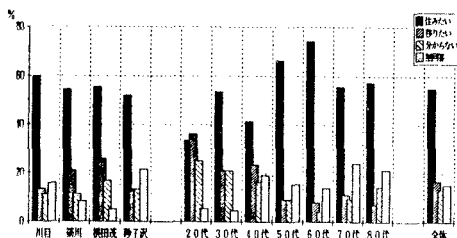


図-3 定住意識

っている。この地域は老年人口割合が25%近くであ

り、将来若年層の流出によって一気に高齢化が進行する可能性がある。

(3) 地域社会の性格分析に用いた質問文と結果を図-4に示す。全体としては「コミュニティ」型が多く、民主的な議論に基づいた地域づくりを進めていくことが望める。

- ①ダム建設は市の要請で県が建設を決めたのだから、出来るだけこれにしたがって地元のために協力したい(「地域共同体」型)
- ②自分としてはどうしてよいかわからないので、自治会や地元の有力者にダム建設への賛成を求められたい(「伝統型」型)
- ③ダム建設に対しては自分の意見・権利を県・市側に強く主張する(「闘争」型)
- ④ダムの建設に對しての態度は、住民みんなの話し合いにより決めていく(「コミュニティ」型)

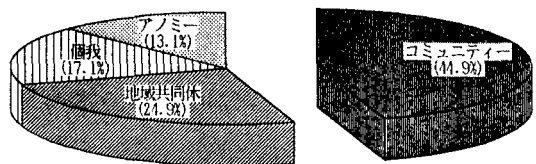


図-4 質問文と地域社会の性格

4. おわりに

今後はダム建設に伴う生活環境整備の方針と計画策定について研究を進める予定である。

最後に、本研究を行なうにあたってご協力いただいた築川ダム周辺地域の皆様、及び築川ダム建設事務所の皆様に感謝の意を表します。